

藤枝市文学館第30回企画展

大正ロマン絵はがきの世界

加藤まさをと抒情絵はがき



加藤まさを絵はがき「花のこころ」

平成24年2月11日(土)～4月8日(日)

藤枝市郷土博物館・文学館

〒426-0014 静岡県藤枝市若王子500番地(蓮華寺池公園内)

TEL: 054-645-1100 http://www.city.fujieda.shizuoka.jp/kyodomuse_index.html

●開館時間：午前9時～午後5時

●入館料：大人200円、中学生以下無料(博物館・文学館共通)

●休館日：月曜日(祝日の場合は開館)、祝日の翌日

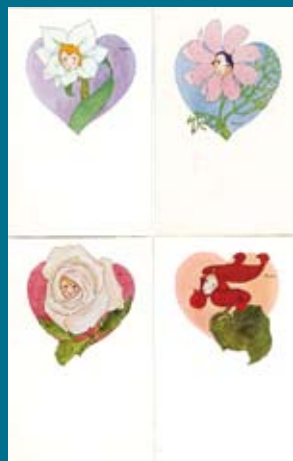
●交通案内：JRの場合…JR 藤枝駅から「新静岡行」バス10分、「蓮華寺池公園入口」下車、徒歩5分／お車の場合…国道1号緑町交差点経由、または藤枝バイパス(東から)藪田東IC、(西から)谷籾葉IC経由



童話画集第一集アンダーセン
「可憐な人魚」



「ベツレヘムの星」



「花のころⅡ」



「曠野の旅」

藤枝市文学館第30回企画展

大正ロマン絵はがきの世界 加藤まさをと抒情絵はがき



「少女倶楽部 仲よし絵はがき」

加藤まさを (1897-1977)

藤枝市出身の抒情画家・詩人。大正から昭和初期にかけて少女雑誌の挿絵や童謡「月の沙漠」の作詞などで活躍。繊細なタッチで描かれるまさをの絵は少女たちの人気を呼んだ。東京の上方屋平和堂発行による絵はがきも多く残している。

明治33年(1900)、郵便法が改正され、官製はがき以外の私製の絵はがきが発行可能となりました。その後、日露戦争(明治37～38)の戦役記念などで様々な絵はがきが発行され、絵はがきブームが起こります。また、大きな博覧会の開催記念として絵はがきが作られたり、地方の名所旧跡・観光地でも絵はがきが作られるようになり、みやげ物として多くの観光客が買い求めました。有名な画家たちも絵はがきに作品を提供し、コレクターが競ってそれを購入しました。

大正時代になると、当時流行したアール・ヌーボーやアール・デコの要素を取り入れた絵はがきが作られます。大正ロマンの香りに満ちた抒情絵はがきが数多く登場し、メランコリックな情景や美少女、童話をモチーフにした絵はがきが人気を博しました。

「月の沙漠」の詩人として知られる藤枝出身の加藤まさをも抒情絵はがきを足がかりに活躍した抒情画家の一人です。まさをのデビュー作ともなった童話画集第一集アンダーセン「可憐な人魚」をはじめ、海賊版が出回るほどの人気を得た上方屋平和堂絵はがきなど、藤枝市文学館が所蔵する加藤まさをを抒情絵はがきを一挙公開します。

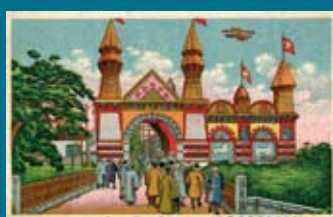
また、藤枝の名所絵はがきや、まさをと同時代に活躍した謎のデザイナー・小林かいちの京都アール・デコの絵封筒など、はがきや封筒にまつわるデザインと、当時の郵便事情や世相を振り返ります。



小林かいちの絵封筒



名所絵葉書「大井川富士見橋」



名所絵葉書「平和記念東京博覧会」

小林かいち (1896-1968)

本名・小林嘉一郎。大正から昭和初期にかけて活躍したデザイナー。抒情画やアール・デコ様式の影響を受けた独特のデザインは、現代にも通じる魅力がある。京都のさくら井屋発行の絵はがきや絵封筒を多くデザインしたことで知られる。長年、謎のデザイナーとされ、近年本格的な研究が行われはじめたがその経歴は不明な点も多い。